

京都メディアアート週間 09

KYOTO MEDIA ART WEEK 2009

B プログラム
ビデオアレ 1 2 (Videonale12) からのセレクト作品集



労働環境のパフォーマンス (イギリス, 2006, カラー, 2分 25 秒)

Performance under Working Conditions

アンドリュー・クーク Andrew Cooke

あらすじ：人間掃除機が描かれた作品。四つん這いで、額を床につけたままカーペットの上を這いまわり、声で掃除機の音をまねる。最初は面白おかしく見えるが、悪労働条件、リスペクトの欠如、尊厳や地位の損失など、社会批判的なパフォーマンスの意図が次第に見えてくる。

アンドリュー・クック：1972年イギリスに生まれる。2004年から2009年まで、シェフィールド・ハラム大学(イギリス)に学ぶ。シェフィールド在住。

主な発表歴：2005年ロンドンのアート映画&ビデオ・フェスティバルに参加。2007年シェフィールドのENDギャラリーで「Performances under Working Conditions」。2008年シェフィールドのミレニアム・ギャラリーで「Yes No Other Options」展。同年サンダーランドのNorthern Gallery for Contemporary Artで「A Modest Proposal」展。



ショット・スルー (イギリス, 2007, カラー, 2分 56 秒)

Shot Through

トム・デール Tom Dale

あらすじ：もし銃で撃たれたら、私達はどのような反応をするか？もし仮に、それが生命を持っていないものだったら…？森におかれたドラムセットに弾丸が命中する。1発、2発…、そして何発も。破壊の様子を観客に目撃させることで、物質性がフォーカスされる。その後、打ち抜かれたドラムセットの近距離でのショットが映し出されると、「モノ」だったものが「生き物」のように見えてくる。作者は、「shot」という言葉を、「銃撃」がカメラや映像のショット」双方の意味で用いている。

トム・デール：1974年イギリス・ケンダル生まれ。1998年～2000年まで、ポーランドのワルシャワ芸術アカデミーに、2000年～2006年までイギリスのゴールドスミス・カレッジにて学ぶ。ロンドン在住。

主な発表歴：2004年キプロスの市立アートセンターで「Body Work」展。2006年リバプール・ビエンナーレにて「Gift」展、ロサンゼルスズのゲッティ美術館で「Reckless Behaviour」展。2008年ワルシャワの現代美術センターで「Six Flags」展、イギリスのプリマス・アートセンターで「Kings Island」展。



凝固する (ルーマニア, 2008, カラー, 5分 56 秒)

Coagulate

ミハイ・グレク Mihai Grecu

あらすじ：水が凝固し、ウナギが空気中で人間のごとく息をし、水面が重力法則に反して空中に水平に漂う…。自然の物理法則に反し、時間を超越した水が主役のコレオグラフィ作品。

ミハイ・グレク：1981年ルーマニア生まれ。2004年から2009年まで、クルージュ・ナボカ造形大学(ルーマニア)およびストラスブール国立高等裝飾美術学校(フランス)に学ぶ。

主な発表歴：2005年カールスルーエのZKM国際メディアアート賞受賞。2007年ル・フレノワ国立現代芸術スタジオ(フランス)で「Panorama 8 – Prémés Coupables」展。2008年ミラノのアートギャラリー Spazio Oberdan で「InVideo: Lands And Skies」展。



ター (インド, 2008, カラー, 4分 30 秒)

Tha

タヒレー・ラール Tahireh Lal

あらすじ：リラクゼーション・エクササイズの個々の場面が視覚化された作品。だんだん静かになる心臓音や、瞑想的な音楽、海の音を背景に、抑制のとれた画像や音声か、見る者の身体感覚を研ぎ澄ませていく…。在学中のバンガロールの芸術学校にて制作されたビデオ作品。

タヒレー・ラール：1986年ニュー・デリー(インド)生まれ。インド・バンガロールのSrishti School of Art, Design and Technologyで映画を学ぶ。



ターニング・トリック (ノルウェー, 2008, カラー, 5 分)

Turning Trick

カヤ・レイヨン Kaja Leijon

あらすじ：本作品は、1957年にフランス人監督フランソワ・トリュフォーが自身の幼年時代の思い出をベースに5人の少年たちの姿を描いた短編映画「あこがれ」をもとに作られている。カヤ・レイヨンは、同映画から、特に、少年たちが疾走し、突然止まって撃ち合いの真似をする場面を用いているが、レイヨンの作品での主人公は女の子となっている。

カヤ・レイヨン：1980年ノルウェー・オスロ生まれ。2002年～2006年オスロ国立芸術大学、2004年ブハラ・インターナショナル・フィルム・スクール、2005年アメリカ・パレンシアのCalArtsに学ぶ。

主な発表歴：2006年ノルウェー・ベルゲンのKunsthallで「Landmark」展。2008年サンフランシスコのYerba Buena Center of the Arts、および、オスロのKunstnermeshusで「Hostutstillnigen」展。



ピア・ツー・ピア (イギリス, 2008, カラー, 12分)

Peer to Peer

クレイグ・マルホランド Craig Mulholland

あらすじ：幻想的な宇宙が、マルホランドの自省的な作品「Peer to Peer」にひろがる。メロディックな言葉を背景音にした宇宙のような雰囲気は、はじめ、調和のとれたものであるが、だんだん回転するレコードのように変化していく…。

クレイグ・マルホランド：1969年イギリス・グラスゴー生まれ。1987年～1991年グラスゴー美術学校に学ぶ。グラスゴー在住。

主な発表歴：2005年ロンドンのホワイトチャペル・プロジェクトスペースで「Arphid」展。同年、ロンドンのテート・ブリテンで「Art Now Lightbox」展。2006年ホワイトチャペル・プロジェクトスペースで「New work UK 4: BASTARDS」展。2008年Glasgow Film Theatreで「Grandes et Petites Machines」展。



展開 (ドイツ, 2007, カラー, 1分 41 秒)

Der Lauf

エルケ・ネーベル Elke Nebel

10/23 (Fri), 24 (Sat), 25 (Sun)

ドイツ文化センター(京都)



あらすじ：本作品で描かれている絵は、ロールシャッハ・テストのようである。流動的に変化し続ける画像は、輪郭がはっきり分かるにつれ、様々な連想を呼び起こす。裸の女性像が男性となり、インディアンに変わり、そしてまた少女へと変化していく…。

エルケ・ネーベル：1975年ドイツ・クレーヴ生まれ。1997年～2002年デュッセルドルフ芸術大学に学ぶ。ドイツ・ホーフ在住。

主な発表歴：2005年デュッセルドルフのKunstraumで「Alice im Aggressorland」展。2007年デュッセルドルフのSammlung Stuxで「Nachhall」展。コ布伦ツのルードヴィヒ美術館で「Von Pferden und Affen」展。



マタンブレ (メキシコ/アメリカ, 2008, 2分 14 秒)

Matambre

ミゲル・アンヘル・リオス Miguel Angel Rios

あらすじ：腹を空かせた犬の群れを連れた、白いアルマーニのスーツを着たダンサー。素早いリズムカルな足の動きと、ボレアドーラス(闘技から発祥したパフォーマンス)の生み出す音で、犬がどんどん攻撃的になっていく…。マタンブレとは、アルゼンチン伝統の「牛肉ロール」と、「空腹を殺せ」という2つの意味がある。

ミゲル・アンヘル・リオス：1943年にアルゼンチンのカタマルカに生まれる。ブエノスアイレスの国立美術アカデミーに学ぶ。

主な発表歴：2005年ワシントンのハーシュホーン博物館と彫刻の森にて展示。2007年ヒューストン大学のBlaffer Galleryで「Aquí」展。2008年第61回ロカルノ国際映画祭(スイス)、および、第5回ソウル国際メディアアート・ビエンナーレ(韓国)に参加。



ボールゲーム (イギリス, 2008, 2分)

Ballgames

トビアス・ステルンベルク Tobias Sternberg

あらすじ：森の空き地で、バスケットボールが飛びはねる。赤いボールがキラキラ輝く緑地をつきぬけ、小屋のベランダも越えて飛んでいくと、今度は男が大砲の弾にされてぶっばなされてしまう。厚紙でできた煙がむくむくと昇り、映画・アニメ・マンガのジャンルをも超えていく…。

トビアス・ステルンベルク：1973年スウェーデンのストックホルム生まれ。2002年～2005年ロンドンのゴールドスミス・カレッジに学ぶ。ロンドン在住。主な発表歴：2005年ソウル国際実験映画フェスティバル(EXiS)に参加。2006年ブタペストのYoung Artist Biennial, AWOLに参加。2007年フランス・リールのSaison Video 2007に出展。2008年ケンブリッジのギャラリーLumen Eclipseに出展。



向かい合い [スタンディング・ダンス] (ドイツ, 2008, 9分 44 秒)

Gegenüber [Ein Stehtanz]

カリン・リンデナ Kalin Lindena

あらすじ：作品が始まってすぐ聞こえてくる音楽が、観客をダンス映画の気分させる。作者自身もパフォーマンスに参加し、NYのビーチでのダンストリオのロングショットに映っている。ダンサーがカメラを直接覗きこむことにより、観客の焦点も合う。こうして、空間だけでなく、人やオブジェクトが互いに「向かい合う」ことになる。

カリン・リンデナ：1977年ドイツ・ハノーバー生まれ。1997年～2004年ブラウンシュヴァイク美術大学に学ぶ。ベルリン在住。

23日(Fri)	14:00～16:00	16:00～18:00	18:00～20:00
24日(Sat)	C1	A	A
25日(Sun)	C2	B	B

主な発表歴：2004年テート・リバプールにて「ラインゴールド～ケルンからのアート」展。2006年ハンブルクのKunstvereinで「Spiralen der Erinnerung」展。同年ウィーンの造形美術アカデミーの「A Public Private Mystery Tour」に出展。2008年ドイツ・ハイルブロンンのKunstvereinにてカリン・リンデナ個展開催。



ポエトリー・イン・モーション (オランダ, 2007, 3分 24 秒)

Poetry in Motion

MAMAMESS

あらすじ：エネルギー溢れる詩人の声のリズムに、書かれた詩が闘争的なスローガンとなり、デジタルの『虚無』の世界に滑り込んでいく。本作品Mamamessでは、古典的な詩のテキストを文字のコレオグラフィとして、アニメーション映画へとメディア変換させている。

Mamamess：1973年イスラエル生まれ。1994年～1998年オランダ・アムステルダムのリートフェルト・アカデミーに学ぶ。ニリット・ペレット(Nirid Peled)とデーヴ・ヘミングウェイ(Dave Hemmingway)の二人で、アムステルダムにプロダクション会社MAMAMESSを設立。2000年より様々な短編映画やドキュメンタリー映画、アニメーションの制作、VJパフォーマンスを行っている。アムステルダム在住。



ヤマカシ (ハンガリー, 2007, 4分 36 秒)

Yamakasi

ショルト・ヴァーシャールハイ Zsolt Vasarhelyi

あらすじ：リズムカルなラップ・ミュージックの流れの中、主人公が岩壁を登る。背景に出てくる歩行者や自動車、木などによって、徐々に、映像が90度回転して撮られたものであり、主人公は街の中で地面を這いつくばっていることが明らかになる…。

ショルト・ヴァーシャールハイ：1970年ハンガリー・デブレツェン生まれ。1998年イギリス・ハートフォードシャー大学アート&デザイン学部、1999年～2002年ハンガリー・パーチ大学美術学部で学ぶ。ブタペスト在住。

主な発表歴：2005年ベルリンのCollegium Hungaricumで「Waldsee 1944」展。2006年バーデン・バーデン州立美術館(ドイツ)で「Lost and Found」展。2008年第62回ロカルノ国際映画祭に参加、同年ブタペストのアート施設Mucsarnokで「t.error」展。



具象化された真実 (ドイツ, 2008, カラー, 5分 30 秒)

Embodied Truth

スザンネ・ビュルナー Susanne Bürner

あらすじ：20世紀初頭の交霊会の様子が再現された作品。作品は3部に分かれており、まず第1部では、3人の女性霊媒師の準備の様子が描かれている。第2部は、カーテンの奥で、霊媒師がスピリチュアルなエクスタシーに導かれる様子を描いている、第3部は、3人の霊媒師が疲れて椅子に座っている様子が映される。霊媒師の上には白い布がかけられ、心霊が具象化されている。

スザンネ・ビュルナー：1970年ドイツ生まれ。1993年から1998年までカールスルーエ造形大学でメディアアートを専攻。2008年よりシュトゥットガルト・メルツ・アカデミーの客員講師を務める。ベルリン在住。

主な発表歴：2005年「Videonale 10」Kunstmuseum Bonn(ドイツ・ボン)に出展。2006年Busan Biennale(韓国・釜山)に出展。2007年第12回Rencontres Internationales(パリ、ベルリン、マドリッド)参加。2008年マルメ美術館(スウェーデン)の「Archeology of Mind」プロジェクトに参加。